

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会（第1回）

議 事 次 第

日時：平成28年9月13日（火）13:30～15:00

場所：阿寒湖まりむ館 多目的ホール

1. 開会

2. 地域協議会の設置について

3. 議題

- （1）国立公園満喫プロジェクトについて
- （2）阿寒国立公園満喫プロジェクトについて
- （3）その他

4. 閉会

－ 配付資料一覧 －

- 資料1 阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱（案）
- 資料2 国立公園満喫プロジェクトについて
- 資料3 ステップアッププログラム2020の検討の進め方
- 資料4 ステップアッププログラム2020の構成
- 資料5 国立公園満喫プロジェクトに係るヒアリング資料（抜粋）（北海道）
- 参考資料1 阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会構成案
- 参考資料2 国内外先進事例

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会 設置要綱（案）

（目的）

第 1 条 国立公園の美しい自然を活かし、より上質な体験を提供することにより、世界水準の「ナショナルパーク」へと改革していく国立公園満喫プロジェクトを阿寒国立公園において推進するための具体的なプログラム（以下「ステップアッププログラム 2020」という。）を策定し、実施していくことを目的に、関係機関の相互の連携を図るため、阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

（協議事項）

第 2 条 協議会は、以下に掲げる事項を協議する。

- （１）阿寒国立公園における国立公園満喫プロジェクトの推進に関する事項
- （２）「ステップアッププログラム 2020」の策定及び実施に関する事項。
- （３）その他、第 2 条の目的を達成するために必要と認められる事項。

（構成員）

第 3 条 協議会は、別表 1 に掲げる関係機関等をもって構成する。

2 協議会は、必要に応じアドバイザーを招集することができる。

（会議）

第 4 条 会議は、必要に応じて事務局が招集する。

2 議事は、事務局において進行する。

（阿寒地域部会及び摩周地域部会）

第 5 条 阿寒国立公園の地域ごとの具体的な事項を検討するため、阿寒地域部会及び摩周地域部会を設置する。

- 2 阿寒地域部会及び摩周地域部会は、それぞれ別表 2－1 及び別表 2－2 に掲げる者で組織する。
- 3 阿寒地域部会及び摩周地域部会では、それぞれの地域における「ステップアッププログラム 2020」の検討及び推進に関する事項を所掌する。

（事務局）

第 6 条 協議会及び各地域部会の事務局は、それぞれ以下に置く。

- （１）協議会 北海道環境生活部及び環境省釧路自然環境事務所
- （２）阿寒地域部会 北海道釧路総合振興局及び環境省阿寒湖自然保護官事務所
- （３）摩周地域部会 北海道釧路総合振興局及び環境省川湯自然保護官事務所

（その他）

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、平成 28 年 月 日から施行する。

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会構成員

団 体 名	職 名	氏 名
環境省釧路自然環境事務所	所長	安 田 直 人
国土交通省北海道開発局	開発監理部 開発連携推進課長	平 野 令 緒
国土交通省北海道開発局	釧路開発建設部長	梅 沢 信 敏
国土交通省北海道運輸局	観光部長	石 橋 圓 行
林野庁北海道森林管理局	計画保全部長	中 村 毅
経済産業省北海道経済産業局	地域経済部長	寒 川 卓 知
北海道釧路総合振興局	局長	田 辺 利 信
北海道環境生活部環境局	生物多様性・エコシカ対策担当局長	石 島 力
北海道経済部観光局	国際観光担当局長	大 崎 浩
釧路市	市長	蝦 名 大 也
美幌町	町長	土 谷 耕 治
津別町	町長	佐 藤 多 一
清里町	町長	櫛 引 政 明
小清水町	町長	林 直 樹
大空町	町長	山 下 英 二
足寄町	町長	安久津 勝彦
標茶町	町長	池 田 裕 二
弟子屈町	町長	徳 永 哲 雄
白糠町	町長	棚 野 孝 夫
中標津町	町長	小 林 実
(公社)北海道観光振興機構	会長	堰 八 義 博
阿寒国立公園広域観光協議会	会長	徳 永 哲 雄
(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構	理事長	大 西 雅 之
(一社)摩周湖観光協会	会長	中 嶋 康 雄
(一財)前田一步園財団	理事長	新井田 利光
(一財)自然公園財団阿寒湖支部	所長	田 中 政 人
(一財)自然公園財団川湯支部	所長	藤 江 晋

阿寒地域部会構成員

団 体 名	職 名	氏 名
環境省釧路自然環境事務所	統括自然保護企画官	安 田 直 人
環境省阿寒湖自然保護官事務所	自然保護官	安 藤 祐 樹
国土交通省北海道開発局	開発連携推進課 開発企画官	本 田 肇
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長	芳 賀 義 博
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長	岡 田 務
国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	山 崎 貴 志
林野庁北海道森林管理局根釧西部森林管理署	署長	竹 下 誠
経済産業省北海道経済産業局	地域経済部 情報・サービス政策課長	小 貫 秀 治
北海道釧路総合振興局	くらし・子育て担当部長	遠 藤 浩
北海道釧路総合振興局	産業振興部長	朝 倉 裕 泰
北海道十勝総合振興局	保健環境部 環境生活課長	富 樫 崇
北海道オホーツク総合振興局	保健環境部 環境生活課長	森 田 和 寿
北海道環境生活部環境局	生物多様性保全課 自然公園担当課長	小 林 隆 彦
釧路市産業振興部	観光振興監	高 玉 雄 司
釧路市総合政策部都市計画課	課長	齋 藤 優 治
津別町産業振興課	主幹	近 野 幸 彦
足寄町経済課	課長	村 田 善 映
白糠町経済課	課長	前 田 広 幸
(公社)北海道観光振興機構事業企画推進部	商品開発グループ担当部長	橋 屋 徹
(特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構	専務理事	山 下 晋 一
津別観光協会	事務局長	安 瀬 雅 祥
(特非)あしよろ観光協会	事務局長	伊 藤 貴 之
(一財)前田一步園財団	常務理事	石 本 雄 一
(一財)自然公園財団阿寒湖支部	所長	田 中 政 人
阿寒温泉地区景観協議会	会長	秋 辺 日 出 男
阿寒アイヌ工芸協同組合	代表理事	西 田 正 男

摩周地域部会構成員

団 体 名	職 名	氏 名
環境省釧路自然環境事務所	統括自然保護企画官	安 田 直 人
環境省川湯自然保護官事務所	自然保護官	萱 島 拓 郎
国土交通省北海道開発局	開発連携推進課 開発企画官	本 田 肇
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長	芳 賀 義 博
国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	次長	岡 田 務
国土交通省北海道運輸局釧路運輸支局	首席運輸企画専門官	山 崎 貴 志
林野庁北海道森林管理局根釧西部森林管理署	署長	竹 下 誠
経済産業省北海道経済産業局	地域経済部 情報・サービス政策課長	小 貫 秀 治
北海道釧路総合振興局	くらし・子育て担当部長	遠 藤 浩
北海道釧路総合振興局	産業振興部長	朝 倉 裕 泰
北海道オホーツク総合振興局	保健環境部 環境生活課長	森 田 和 寿
北海道根室総合振興局	保健環境部 環境生活課長	馬 淵 孝
北海道環境生活部環境局	生物多様性保全課 自然公園担当課長	小 林 隆 彦
美幌町経済部商工観光グループ	観光主幹	那 須 清 二
清里町企画政策課	課長	本 松 昭 仁
小清水町産業課	課長	久 保 弘 志
大空町産業建設課	主幹	阿 部 征 弘
標茶町企画財政課	課長	高 橋 則 義
弟子屈町観光商工課	課長	松 岡 友 之
弟子屈町環境生活課	課長	渡 邊 忠
中標津町経済振興課	課長	天 野 英 典
(公社)北海道観光振興機構事業企画推進部	商品開発グループ担当部長	橋 屋 徹
(一社)摩周湖観光協会	副会長	平 塚 一 明
美幌観光物産協会	事務局長	信 太 真 人
(特非)きよさと観光協会	事務局長	奥 山 英 明
小清水町観光協会	事務局長	成 戸 明 男
(特非)めまんべつ観光協会	事務局長	星 加 政 志
東藻琴観光協会	事務局長	中 山 守
標茶町観光協会	事務局長	井 上 栄
(一社)なかしべつ観光協会	専務理事	田 村 道 明
阿寒国立公園川湯地域運営協会	会長	徳 永 則 行
(一財)自然公園財団川湯支部	所長	藤 江 晋

国立公園満喫プロジェクトについて

「明日の日本を支える観光ビジョン」－世界が訪れたい日本へ－ 概要

平成28年3月30日策定

これまでの議論を踏まえた課題

- 我が国の豊富で多様な観光資源を、誇りを持って磨き上げ、その価値を日本人にも外国人にも分かりやすく伝えていくことが必要。
- 観光の力で、地域の雇用を生み出し、人を育て、国際競争力のある生産性の高い観光産業へと変革していくことが必要。
- CIQや宿泊施設、通信・交通・決済など、受入環境整備を早急に進めることが必要。
- 高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要。

「観光先進国」への「3つの視点」と「10の改革」

視点 1

「観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」

- 「魅力ある公的施設」を、ひろく国民、そして世界に開放
 - ・赤坂や京都の迎賓館などを大胆に公開・開放
- 「文化財」を、「保存優先」から観光客目線での「理解促進」、そして「活用」へ
 - ・2020年までに、文化財を核とする観光拠点を全国で200整備、わかりやすい多言語解説など1000事業を展開し、集中的に支援強化
- 「国立公園」を、世界水準の「ナショナルパーク」へ
 - ・2020年を目標に、全国5箇所の公園について民間の力も活かし、体験・活用型の空間へと集中改善
- おもな観光地で「景観計画」をつくり、美しい街並みへ
 - ・2020年を目途に、原則として全都道府県・全国の半数の市区町村で「景観計画」を策定

視点 2

「観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」

- 古い規制を見直し、生産性を大切にする観光産業へ
 - ・60年以上経過した規制・制度の抜本見直し、トップレベルの経営人材育成、民泊・民泊の整備、宿泊業の生産性向上など、総合パッケージで推進・支援
- あたらしい市場を開拓し、長期滞在と消費拡大を同時に実現
 - ・欧州・米国・豪州や富裕層などをターゲットにしたプロモーション、戦略的なビザ緩和などを実施
 - ・MICE誘致・開催の支援体制を抜本的に改善
 - ・首都圏におけるビジネスジェットの受入環境改善
- 疲弊した温泉街や地方都市を、未来発想の経営で再生・活性化
 - ・2020年までに、世界水準DMOを全国100形成
 - ・観光地再生・活性化ファンド、規制緩和などを駆使し、民間の力を最大限活用した安定的・継続的な「観光まちづくり」を実現

視点 3

「すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に」

- ソフトインフラを飛躍的に改善し、世界一快適な滞在を実現
 - ・世界最高水準の技術活用により、出入国審査の風景を一変
 - ・ストレスフリーな通信・交通利用環境を実現
 - ・キャッシュレス観光を実現
- 「地方創生回廊」を完備し、全国どこへでも快適な旅行を実現
 - ・「ジャポン・レールパス」を訪日後でも購入可能化
 - ・新幹線開業やコンセクション空港運営等と連動した、観光地へのアクセス交通充実の実現
- 「働きかた」と「休みかた」を改革し、躍動感あふれる社会を実現
 - ・2020年までに、年次有給休暇取得率70%へ向上
 - ・家族が休暇をとりやすい制度の導入、休暇取得の分散化による観光需要の平準化

新たな目標値について

安倍内閣 3 年間の成果

戦略的なビザ緩和、免税制度の拡充、出入国管理体制の充実、航空ネットワーク拡大など、**大胆な「改革」**を断行。

・ **訪日外国人旅行者数**は、**2 倍増**の**約2000万人**に

(2012年) (2015年)

836万人 ⇒ 1974万人

・ **訪日外国人旅行消費額**は、**3 倍増**の**約 3.5 兆円**に

1兆846億円 ⇒ 3兆4771億円

新たな目標への挑戦！

訪日外国人旅行者数

2020年： **4,000万人**
(2015年の約2倍)

2030年： **6,000万人**
(2015年の約3倍)

訪日外国人旅行消費額

2020年： **8兆円**
(2015年の2倍超)

2030年： **15兆円**
(2015年の4倍超)

地方部での外国人延べ宿泊者数

2020年： **7,000万人泊**
(2015年の3倍弱)

2030年： **1億3,000万人泊**
(2015年の5倍超)

外国人リピーター数

2020年： **2,400万人**
(2015年の約2倍)

2030年： **3,600万人**
(2015年の約3倍)

日本人国内旅行消費額

2020年： **21兆円**
(最近5年間の平均から約5%増)

2030年： **22兆円**
(最近5年間の平均から約10%増)

国立公園満喫プロジェクト

I. 背景

明日の日本を支える観光ビジョン

平成28年3月30日策定

訪日外国人旅行者数に関する新たな目標として、
2020年に約2倍となる4,000万人を目指す。
国立公園は、10本の柱の一つに位置づけ。

国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
「国立公園満喫プロジェクト」として、まずは5箇所の国立公園で、「国立公園ステップアッププログラム2020」を策定し、訪日外国人を惹きつける取組を計画的、集中的に実施

※2015年の訪日外国人の国立公園利用者数は430万人

II. 現状と課題

	日本の国立公園	北米の国立公園
自然環境	バラエティ豊かな自然 (多様な自然景観・野生生物と季節変化)	ダイナミックな自然 (規模が大きいが一時的)
土地所有	国・公有地、民有地	国有地(公園専用地)
魅力ポイント	自然と人の暮らしの調和 (自然・文化・歴史・食・温泉...)	人為を排した、原生的な自然

日本の国立公園は、**優れた自然のみならず、その自然に育まれた伝統文化や食などの地元特有の人の暮らしに触れられる公園**

インバウンドに対して、国立公園のポテンシャルが十分に引き出されていない

- ①外国人が満喫できるメニュー、快適な利用環境の未整備
- ②外国人をも魅了する公園利用拠点の不備
- ③外国人に日本の国立公園の魅力が伝わっていない

III. 基本的考え方

- ①「**最大の魅力は自然そのもの**」をコンセプトに、非日常的な体験を世界の人々に提供
- ②最高の自然環境をツーリズムに開放し、**高品質・高付加価値のインバウンド市場を創造**

IV. 選定経緯

平成28年5月10日：有識者会議設置(3回開催)

平成28年7月25日(第3回)：会議の議論を踏まえ、要望があった**16の国立公園の中から、先行的、集中的に取組を実施する8つの公園を大臣が選定**

阿寒、十和田八幡平、日光、伊勢志摩、
大山隠岐、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、
慶良間諸島



阿蘇くじゅう国立公園

V. 今後の予定

平成28年8月目処：8つの公園ごとに**地域協議会**を設置

平成28年12月まで：各地域協議会において

「ステップアッププログラム2020」を策定

平成29年1月以降：**8公園のビューポイント(重点取組地域)**において、インバウンド増加に向けた**本格的取組を実施**

※選定されなかった8公園についても、1～2カ所のビューポイントにおいて取組を実施

全国の国立公園に展開！！

2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1000万人に！

先導的モデルとなる国立公園の選定について

参考資料

選定のメルクマールを有識者会議の議論を踏まえて設定

1. 地元の熱意と仕組み

- ①地元の主体性、推進体制の構築
- ②インバウンド増加に係る戦略・計画の策定
- ③自然環境（景観を含む）を損なうことのない適正な利用の担保

2. インバウンドを伸長する潜在力（ポテンシャル）

- ①観光資源としてのポテンシャル
- ②幅広い主体（観光庁・文化庁・民間等）との有機的連携のポテンシャル

3. 特徴あるテーマ性、モデル性

自治体（道県）から要望があった国立公園は16公園

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| ・阿寒国立公園（北海道） | ・十和田八幡平国立公園（青森県、秋田県、岩手県） |
| ・日光国立公園（栃木県） | ・上信越高原国立公園（長野県） |
| ・中部山岳国立公園（富山県、岐阜県） | ・妙高戸隠連山国立公園（長野県） |
| ・吉野熊野国立公園（和歌山県） | ・瀬戸内海国立公園（兵庫県、香川県） |
| ・足摺宇和海国立公園（高知県） | ・雲仙天草国立公園（長崎県） |
| ・霧島錦江湾国立公園（鹿児島県、宮崎県） | ・慶良間諸島国立公園（沖縄県） |
| | ・富士箱根伊豆国立公園（静岡県） |
| | ・伊勢志摩国立公園（三重県） |
| | ・大山隠岐国立公園（鳥取県、島根県） |
| | ・阿蘇くじゅう国立公園（熊本県、大分県） |

※締め切りまでにメルクマールに沿った総合的評価が可能な情報をいただいた道県に限る

- メルクマールに沿って、総合評価を行った結果、8つの公園を候補として選定
- 選定された公園では複数のビューポイント（重点取組地域）において先行的、集中的に取組を推進
- 要望があったその他の公園についても1, 2か所のビューポイントにおいて、それぞれの特性に合ったハードやソフトの取組を実施

全国の国立公園に展開！！

2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1000万人に！

選定された国立公園

参考資料

国立公園名	選定のポイント
○阿蘇くじゅう	災害復興、カルデラと千年の草原
○阿寒	観光立国ショーケース、エコツーリズム全体構想
○十和田八幡平	震災復興、温泉文化
○日光	欧米人来訪の実績
○伊勢志摩	伝統文化、エコツーリズム全体構想
○大山隠岐	オーバーユースに対する先進的取組
○霧島錦江湾	多様な火山と「環霧島」の自治体連携
○慶良間諸島	地元ダイビング事業者によるサンゴ保全の取組 エコツーリズム全体構想

今後の主なスケジュール

2016 (H28)
8月 9月

2017 (H29)
10-11月 12月 4月



2020
(H32)

道県ヒアリング

国立公園満喫プロジェクト等推進事業等

H28補正
約103億円
の内数

H29当初
約101億円
の内数

H30以降も
要求予定

地域協議会準備会合

第1回地域協議会

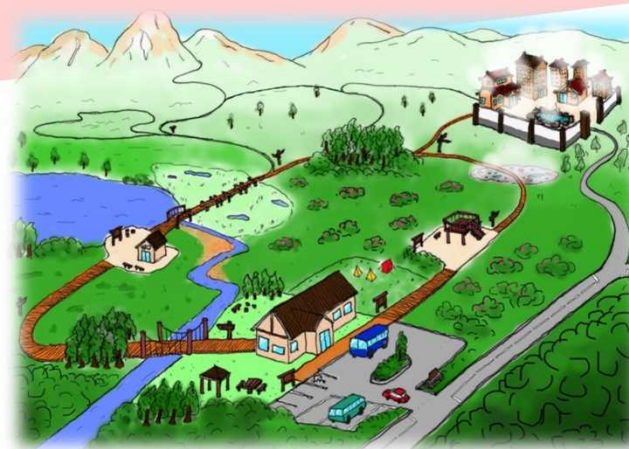
ステップアッププログラム
たたき台

第2、3回地域協議会等

ステップアッププログラム
策定

ステップアッププログラム
に基づき各種取組を実施

外国人国立公園利用者数
1000万人



有識者会議委員等の
アドバイザーから助言

ステップアッププログラム2020に盛り込む取組（例）

1. 交通拠点から国立公園までのアクセスルート

方向性

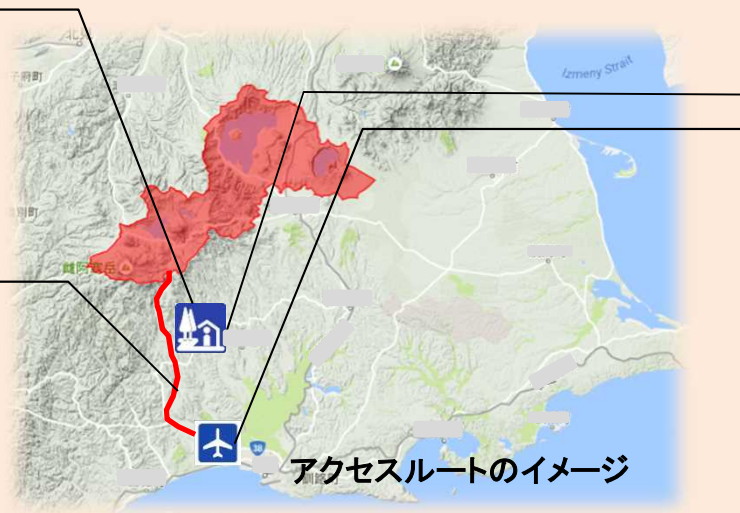
国立公園に加えて公園に至るアクセスルートを含む全域を「保全区域」と認識し、看板、廃屋等、眺望を妨げるもの一切を撤去するなど、**自然の魅力を最大限引き出す。**

- ①外国人観光客の**主要交通拠点の洗い出し**と同拠点における**国立公園への誘導情報の提供**
- ②自然景観や文化財等の所在も踏まえ、屋外広告物の制限や撤去、電線の地中化、街並みの統一に に向けた 関係者の協力が得られる**主要アクセスルートの設定と、景観整備に必要な仕組みづくり**
- ③**アクセスルート上のトイレ等のユニバーサルデザイン化、多言語案内の設置**

ユニバーサルデザイン化等



アクセスルート沿いの
景観整備



地図データ ©2016 Google, ZENRIN

空港、道の駅等における
国立公園の情報提供



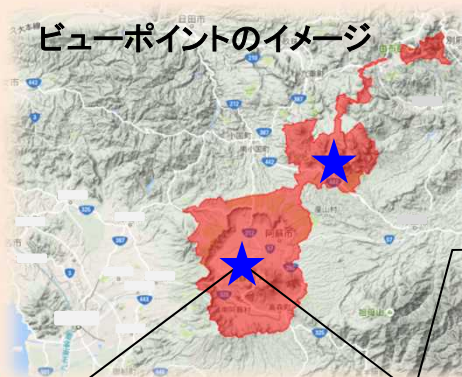
ステップアッププログラム2020に盛り込む取組（例）

2. 国立公園区域内

方向性

大自然の中に身を置き、体感できるよう、上質な宿泊・滞在施設の誘致やツアー・プログラムの開発などにより、**公園区域内の大胆な利用の拡大**を図る。

- ① **ビューポイント（重点取組地域）の設定**。案内標識等のデザイン統一、多言語化、IT活用による情報提供等をセットにした利用施設の整備、景観上の障害物の除去等
- ② **上質な宿泊・滞在施設の誘致**に向けた拠点設置の候補となるエリアの絞り込み。上記施設誘致に向けた地元関係者間の合意形成。**利用施設計画の柔軟な見直し（歩道等を含む）**
- ③ **廃業宿泊施設等のリニューアル、ビジターセンターにおける新サービスの提供、美しい街並みの整備、屋外広告規制や景観統一に向けた仕組みづくり、Wi-Fi環境の整備、国有林野の活用等の検討**
- ④ **園内ルート周辺における景観障害物撤去の仕組みづくり**
- ⑤ **地域へのインバウンドが求めるニーズ情報の整理や、ニーズに即した公園内の観光資源にかかる映像・動画の収集。観光資源を活用した魅力的なプログラムの開発、ガイド育成**



廃屋撤去後の
利用施設の整備



展望地の整備とITを
活用した解説案内



VCIにおける新サービス
例) ツアーデスク設置

3. プロモーション・誘導策

方向性

国の機関によるプロモーション活動。それと連動した地域ならではの情報の発信

阿寒国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム 2020 の検討の進め方

阿寒国立公園満喫プロジェクトを推進するためのステップアッププログラム 2020 の策定に向けて、阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会（以下「地域協議会」という。）及び各地域部会（阿寒地域部会、摩周地域部会）において、以下のとおり検討を進める。

平成 28 年 9 月 13 日

- 地域協議会（第 1 回）
- 阿寒地域部会・摩周地域部会（第 1 回）（合同開催）
 - ・地域協議会の設置
 - ・阿寒国立公園満喫プロジェクトについて
 - ・ステップアッププログラムの検討の進め方

10 月頃

- 阿寒地域部会（第 2 回）
- 摩周地域部会（第 2 回）
 - ・ステップアッププログラム（素案）について

11 月頃

- 阿寒地域部会（第 3 回）
- 摩周地域部会（第 3 回）
 - ・ステップアッププログラム（案）について
 - ・各部会とりまとめ

12 月

- 地域協議会（第 2 回）
 - ・ステップアッププログラム（案）について
 - ・とりまとめ

ステップアッププログラム 2020 の構成

はじめに

- ・背景、計画期間（2020 年まで）、概要説明

1. 現状分析

- ・当該国立公園の特徴
- ・当該国立公園を訪れている外国人の国別内訳は〇〇
- ・当該国立公園が有する課題

2. コンセプトと取組の方針

- ・当該国立公園のコンセプトは〇〇（例：アイヌ文化をつむぐ森と湖）
- ・コンセプトの解説（背景となる当該公園オリジナルの特徴や魅力、提供できるサービスなど）
- ・当該国立公園が目指すべき姿、取組の方針、ターゲットとする利用者層の明確化（国籍、旅行形態、関心事項）

3. 目標

- ・当該国立公園は 2020 年に訪日外国人来訪者数を〇万人とすることを目標とする
- ※道県等有する既存のデータを踏まえ、どこまで目標として共通に記載するか、要検討

4. プロジェクトの実施

- ※可能な限り具体的な箇所名、実施主体、実施時期を追記した文章を記載する。
また、実施箇所の位置関係がわかる図面を添付する。

（1）主要交通拠点から国立公園主要利用拠点までのアクセスルートに係る事項

1）アクセスルートの特定と取組方針

- ※当該国立公園に外国人観光客が使用すると想定される交通拠点から国立公園内のビジターセンター等の主要な利用拠点までのアクセスルートを図面で記載するとともに、設定の理由と当該アクセスルートの現状及び取組方針を記載する。

2）アクセスルート上で実施する事項

(2) 国立公園内に係る事項

1) 国立公園全体の取組方針

※国立公園全体の取組方針を以下の項目に沿って記載する。本項目を見るとき国立公園でおおよそどのようなことをするのかがわかるように記載する。

①多様なサービスの提供のための民間活用

(i) ビジターセンター等公共施設の民間開放

(ii) 上質な宿泊施設の誘致

(iii) ツアー・プログラム開発とガイド育成

(iv) 利用料等の公園管理への活用

②まちなみ等の景観改善

③インバウンド対応のための施設整備等

2) ビューポイント（重点取組地域）に係る事項

①ビューポイントの設定

※冒頭に、国立公園全体で均一に取り組んでいくのではなく、重点的に取り組む地域を設定し、当該地域を大きく改善して利用者を惹きつけることが効果的であることを記載。

(i) ○○湖畔

(ii) ○○温泉街

※国立公園全体の中でのビューポイントの位置がわかる図面を記載するとともに、設定の理由を記載する。

②ビューポイント等において実施する事項

(i) ○○湖畔（適宜、(ii) ○○温泉街、(iii) …、とビューポイントを適宜追加）

※冒頭にビューポイントごとの取組方針を記載する。

※記載する事項がない場合は以下の項目を適宜削除する。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ビジターセンター等公共施設の民間開放

b) ツアー・プログラム開発とガイド育成

c) 利用料等の公園管理への活用

イ) まちなみ等の景観改善

ウ) インバウンド対応のための施設整備等

※分類困難な場合は同じ施策を適宜再掲する。

3) 国立公園全体に係る事項等

※国立公園全体に共通する施策やビューポイント以外に局所的に実施する事項について記載

(3) 国立公園への誘導策・プロモーションに係る事項

※取組方針を記載した上で、具体的な施策について記載する。

(4) スケジュール

※4.(1)～(3)の各施策とその実施時期を一覧表(縦軸に施策を並べ、横軸を時系列とし、実施時期の確度に応じて点線や実線で実施時期を記載するイメージ。可能な場合は開始時期も記載)として整理して記載。

5. 効果検証

- ・観光統計による毎年の訪日外国人による国立公園の推計利用者数で増加率を検証
- ・利用者アンケート等による改善点等の抽出
- ・地域協議会で情報共有の上、翌年度の取組にフィードバック

<記載にあたっての注意事項>

国からの支援にあたっては、特に、国立公園へのアクセス経路を含めた思い切った景観の改善やそのための制度の手当てについて具体的に記載することが必要

例1) ○○温泉街において、地域住民や事業者との○○温泉街の景観協定を平成○年度までに締結することを目指す(○○市)

例2) アクセスルート沿線を対象に広告物の新規設置の禁止や既存広告物の是正・撤去等を盛り込んだ屋外広告物規制条例を平成○年度までに制定することを目指す(○○県)

国立公園満喫プロジェクト
に係るヒアリング資料（抜粋）
（北海道）

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	川湯温泉街	ビュー ポイントNo	1
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
○利用形態 源泉かけ流しの温泉施設を持つ宿泊施設に宿泊または日帰り入浴。温泉街を流れる湯の川に設置された足湯および公衆浴場の利用。エコミュージアムセンターで弟子屈エリアと国立公園全体の情報を収集するとともに、自然環境について学習。硫黄山周辺を含む川湯温泉周辺の原生林の散策路をハイキング。 ○外国人旅行者の実態 J R川湯温泉駅から道道で硫黄山を経由、または青葉トンネル散策路とつつじが原散策路を経由して温泉街へ徒歩で移動している。エコミュージアムで弟子屈エリアのハイキングコース、キャンプ場および国立公園全体の情報を収集する。川湯温泉に宿泊する外国人旅行者は主にアジアの団体客で、欧米諸国の旅行者は屈斜路湖、摩周温泉のユースホステルや民宿を利用して日帰りで川湯温泉を訪れる傾向にある。 外国人旅行者の温泉街宿泊延べ人数実績（H27年度）は、9,280名（上期4,076名/下期5,204名）となっている。 ○アクセス J R川湯温泉駅から路線バスで10分または徒歩30分。			
			
1-2. キャパシティ			
○宿泊施設 合計件数 11件 / 合計部屋数 580室 / 合計収容人数 2,458名 ○足湯 同時入浴可能人数 20名			
1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○アドバンテージ

- 硫黄山から流れる湯の川から採る温泉は、日本でも屈指の酸性度の高い温泉（PH1.8）であり、温泉街の宿泊所はいずれも源泉かけ流しである。
- 硫黄山の硫黄採掘の時代からの長い開拓の歴史がある。
- 周囲は硫黄山、つつじが原、アカエゾマツの森等の原始から変わらない森林に囲まれており、国立公園らしい環境に立地する。
- 川湯園地には国立公園の全体像を学習できるエコミュージアムセンターがあり、総合的に情報収集と学習ができる。
- 園地入口の足湯は旅行者と住民の交流の場にもなっている。
- 摩周湖、屈斜路湖にも近く、ハイキング、登山、カヌー、釣り、乗馬などのアクティビティーを満喫するための拠点となる。
- 英語対応可能な地元の旅行会社があり、現地ツアーへの参加申し込みも容易である。

○克服すべきポイント

- 廃業した宿泊施設および土産物店の建物、看板が放置され景観が著しく損なわれ、通行の安全に問題が生じている場所がある。
- 営業中の施設も老朽化が激しく、一部使用できないフロアがあるなど全体的に疲弊した雰囲気になっている。
- 昼食を提供する飲食店が非常に少なく、店とメニューが限定されている。
- 歴史ある温泉街としての景観の統一感がない。観光案内所はあるが、多言語対応できていない。

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- 硫黄山の硫黄採掘のための鉱山鉄道や温泉街の歴史などを学習できる資料館を作る（現在観光案内所が入る公共の施設または硫黄山レストハウス内に設置可能）
- 温泉街から歩ける散策路の整備および散策路案内表示を多言語化する。
- 温泉街の空き地にピクニックエリアを整備する。

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- 廃業した倒壊の可能性がある建物を撤去し、ピクニックエリアに整備する。
- 環境省の条例に基づき、国立公園内の歴史ある秘湯をイメージした温泉街の景観プランを策定し、事業者にも順守を促す。
- 空き店舗利用者への助成等の内容を充実させ、飲食店の新規開業者を支援する。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	摩周湖第一展望台から第三展望台への散策路	ビュー ポイントNo	2
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
○利用形態 かつては第一と第三展望台を繋ぐ散策路があり途中に第二展望台があったが、現在は整備がされておらず通行不能。冬季は、スノーシューで移動が可能であり、ガイドツアーに参加する旅行者もいる。第三展望台は第一展望台とは異なる景観を眺望できる夏季のみアクセス可能な展望台として利用される。大型バスは駐車不可のため、自転車、徒歩、バイク、乗用車を利用する旅行者のみ入ることができる。第三展望台は訪問者も少なく建物もないため、より壮大な自然を体感できる。夏の雲海の撮影ポイントとしてプロ・アマチュアを問わず写真家の利用も多い。 ○外国人旅行者の実態 第三展望台は観光バスを利用しない主に欧米系旅行者が長時間滞在している。単なる展望台としてだけでなく、早朝の雲海、夜の星観察、冬のスノーシュー（ガイドツアー）で利用されることもある。自転車で北海道を周遊するサイクリストの目的地ともなっている。 ○アクセス 第三展望台へは釧路空港から空港バスでＪＲ釧路駅まで４５分、ＪＲ釧網線に乗り換え摩周駅下車、路線バスおよび期間限定町内周遊バス（７月中旬～１０月中旬、１月末～２月末）で３０分			
			
1-2. キャパシティ			
○第三展望台駐車場 乗用車１０台 ○第三展望台の利用者数 制限なし。（展望台および展望台から第一展望台への散策路入口へ向かう通路から眺望可能）			

※ビューポイント１か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが５か所ある場合は、別紙を５部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント
○アドバンテージ 散策路が通行可能となった場合、 ● リスや野鳥などの野生動物や季節の花々や紅葉を観察することができる。 ● 世界屈指の透明度を誇る摩周湖を眺めながら適度なハイキングが楽しめる。 ● 展望台で滞留する旅行者を分散させることができる。 ＜克服すべきポイント＞ ● 散策路の再整備。 ● 再整備後の管理。 ● 滑落等の防止と安全性の確保。 ● 環境保全への対策。
2. 対策
2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策
● 摩周湖周辺の動植物、摩周湖からの景観などについてより理解が深まるような案内表示を多言語で散策路上に複数設置する。 ● 第一展望台と同じく完全バリアフリーとなるように散策路を整備する。
2-2. 克服すべきポイントに対する対策
● 関係省庁、関係団体との協議。 ● 散策路入口にゲートを設け、夜間は締める。 ● 散策路入口に環境保全に関する注意を表示するサインを設置する。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	摩周湖第一展望台とその周辺	ビュー ポイントNo	3
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
○利用形態 摩周湖を眺望するポイントとして、大型バスも乗り入れ可能であり、通年利用されている。摩周岳、西別岳への登山口であり、また北根室ランチウェイの中間地点でもあるため、登山者の利用もある。夏の雲海、冬の霧氷の撮影ポイントとしてプロ・アマチュアを問わず写真家の利用も多数である。 外国人旅行者を含む駐車場利用者のH27年度実績は438,500名(71,600台) ○外国人旅行者の実態 自転車、徒歩、車両、路線バス、観光バスを使って多数利用。特に中国、東南アジアからの旅行者は釧路方面からの観光バスで訪れることが多い。単なる展望台としてだけでなく、夏登山、冬のスノーシュー(ガイドツアー)、夜の星観察を目的に、その拠点として利用されることもある。自転車で北海道を周遊するサイクリストの目的地ともなっている。 ○アクセス 釧路空港から空港バスでJR釧路駅まで45分、JR釧網線に乗り換え摩周駅下車、路線バスおよび期間限定町内周遊バス(7月中旬～10月中旬、1月末～2月末)で25分			
			
1-2. キャパシティ			
○駐車場 乗用車132台 / 多目的車5台 / 大型バス14台 ○利用者数 制限なし。(展望台およびレストハウス屋上、レストハウス前の展望スペース、展望台からレストハウス屋上への通路から眺望可能)			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください(ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること)

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント
○アドバンテージ ● 世界屈指の透明度を誇る摩周湖を目前に眺めることができ、夜は晴れていれば満点の星空を観察できる。 ● 登山口に位置し、トイレなどの施設を使用できる。 ● 展望台までスロープがあり、バリアフリー設計になっている。 ○克服すべきポイント ● 展望台の柵が縦格子のため、車いすから湖の全景を眺望できない。 ● 4月下旬から7月中旬、10月中旬から1月末までの期間はバスが運行されず、最寄駅からはタクシー利用または徒歩となる。 ● 摩周湖を眺めながら長時間滞在できる設備がない。（ベンチ、カフェなど） ● サインが統一されていない。
2. 対策
2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策
● 環境省による摩周湖および阿寒国立公園を解説する多言語看板を屋外に設置し、摩周湖への理解を深めてもらうとともに、公園内の他の場所へ誘導し、再訪および長期滞在を促す。 ● 雲海や霧氷、星空観察する旅行者がレストハウス営業時間外でも待機できる施設を作る。
2-2. 克服すべきポイントに対する対策
● 車いすからでも眺望を妨げないように、展望場所の柵を透明なボードに変える。 ● JR摩周駅からの乗り合いタクシーの設置（駅の案内所で人数がそろえばタクシー会社に要請）、バスの運行 ● レストハウス内の湖に面した位置に休憩スペースを設ける。また、レストハウス前の展望スペースをオープンカフェにし、レストハウス屋上をピクニックエリアにする。 ● 環境省による国立公園内共通デザインの多言語看板を設置する。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	ビュー ポイントNo	4
1. 現状分析		
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等		
○利用形態 川湯・屈斜路コタン方面と美幌方面を結ぶ道路に架かる橋で屈斜路湖と釧路川源流を眺望できる。橋のそばにはカヌーポートがあり、釧路川をカヌーで下る人の撮影や釣りにも利用されている。 ○外国人旅行者の実態 カヌーツアーに参加する旅行者はこの橋をくぐって釧路川へ出る。カヌーツアーには主に中国、東南アジアからの旅行者が参加している。 ○アクセス 釧路空港から空港バスでＪＲ釧路駅まで４５分、ＪＲ釧網線に乗り換え９０分の摩周駅下車、タクシーで２０分。またはＪＲ川湯温泉駅から期間限定町内周遊バス（７月中旬～１０月中旬、１月末～２月末）で６０分のコタン下車徒歩１０分。		
		
1-2. キャパシティ		
制限無し		
1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント		

※ビューポイント１か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが５か所ある場合は、別紙を５部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○アドバンテージ ● 釧路川のスタートポイントにある橋であり、水面からの距離が近いカヌー利用者を撮影するには最適な場所である。 ● 屈斜路湖が釧路川にそそぐ場所で、水面が近いので、魚を観察することができる。 ＜克服すべきポイント＞ ● コンクリートの橋に鉄の欄干は釧路川源流の景観として好ましくない。釧路川源流のイメージを損ねる。 ● カヌー利用者が橋を下から見上げた時に圧迫感がある。 ● 老朽化している。
2. 対策
2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策
● 橋の欄干を高くし、安全性を確保する。 ● 水面からの高さは維持し、擬木を使った橋にかけ替える。
2-2. 克服すべきポイントに対する対策
2-1に同じ。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）
※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	阿寒湖畔湖岸公園 (湖畔園地～ボッケ遊歩道～滝口)	ビュー ポイントNo	5
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
○当該ビューポイントの利用形態 ・湖岸散策（園地） ・自然探勝、トレッキング、フィッシング、スノーシュー（遊歩道、滝口） ○当該ビューポイントまでの主要利用拠点からの公共交通機関での所要時間、経路 ・阿寒湖畔エコミュージアムセンターから徒歩で約5分（湖畔園地） ・ボッケ遊歩道～滝口間は徒歩約2時間 ・景観画像、経路等については下記参照  阿寒湖畔園地  阿寒湖畔園地から望む雄阿寒岳と遊覧船  朝焼けの阿寒湖  ボッケ遊歩道			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください



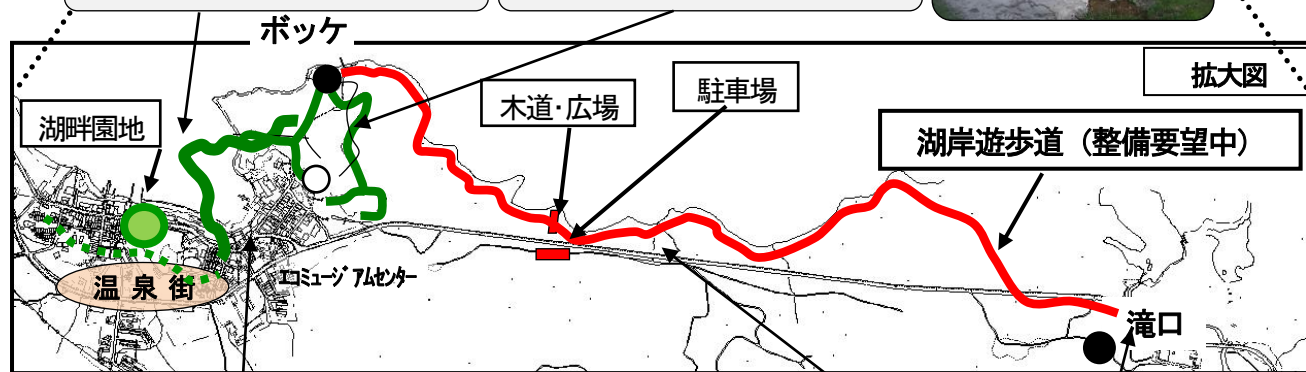
既存遊歩道から見る阿寒湖温泉



ボッケより雄阿寒岳を望み滝口へ



ボッケ(泥火山)



既存遊歩道入口 (阿寒観光汽船本社側)



阿寒湖岸



景勝地「滝口」



※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください (ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること)

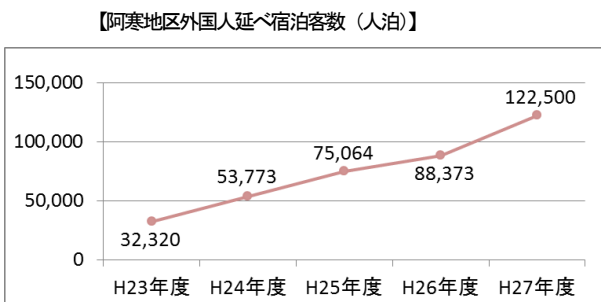
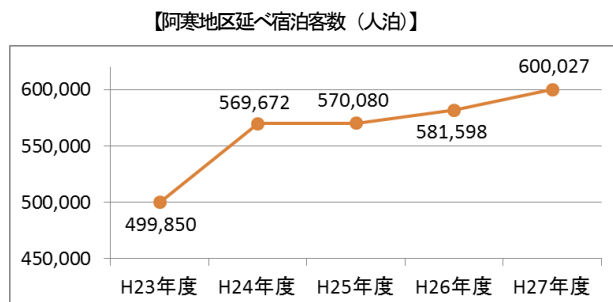
※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○交通アクセス

- ・ 釧路空港→阿寒湖温泉（路線バス：約60分）
- ・ JR 釧路駅→阿寒湖温泉（路線バス：約110分）

○当該ビューポイントを訪れる外国人旅行者の数、国籍、意識調査等の結果

■ 阿寒地区の延べ宿泊客数の推移



1-2. キャパシティ

- ・ 湖畔園地に関しては、利用形態が湖岸散策等の都市公園的利用が主となることから、観光客の増加に伴う風致等への影響は生じない。
- ・ ボッケ～滝口区間（3.0 km）の半分程度においてフットパスが形成されており、主に釣り人に利用されている。なお、滝口には雄阿寒岳登山者用の未舗装駐車場（6～7台）があり、夏期には登山者等の車でスペースが埋まることがあるため、駐車場整備や当該遊歩道の整備を行うことで、キャパシティを増やすことができる。

※当該区間は歩道阿寒湖畔滝口線の未執行区間であり、釧路市より整備に対して要望実施中。

- ・ 宿泊地（阿寒湖温泉）の稼働状況は、8月（盆休み期間等）、10月（紅葉時期）、2月（春節期間）において集中的にピークを迎えるが、それ以外の時期においては宿泊キャパシティに問題はない。

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント

【アドバンテージ】

- ・ 湖畔園地は阿寒湖の湖岸まで直接立ち入ることのできる有数のポイントであり、雄阿寒岳をはじめとする阿寒の山々を眺望することができ、エコミュージアムセンターを拠点とする湖畔の自然をゆっくりと楽しめる空間と、上質感のある滞在環境を満喫することができる。
- ・ ボッケ遊歩道と、湖岸遊歩道の未整備区間である「ボッケ」から「滝口」に至るルートは、雄大な雄阿寒岳と湖水を眺望しながら自然探勝や散策が楽しめる唯一のコースであり、「世界最高峰の遊歩道」になりうる潜在性を有している。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

【克服すべきポイント】

- ・ 親水護岸、遊歩道等の未整備、老朽化
- ・ 案内、誘導等サインの未整備、不統一
- ・ 外国人旅行者の受入を見据えた国際化対応含むユニバーサルデザイン化
- ・ ヒグマ等野生動物発生における利用者の安全確保（ボッケ遊歩道～滝口）

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- ・ 「自然」「文化」を活かしたエコツアー等の滞在プログラムの企画開発と磨き上げ
- ・ 海外への効果的なプロモーション等の実施、情報発信力の強化

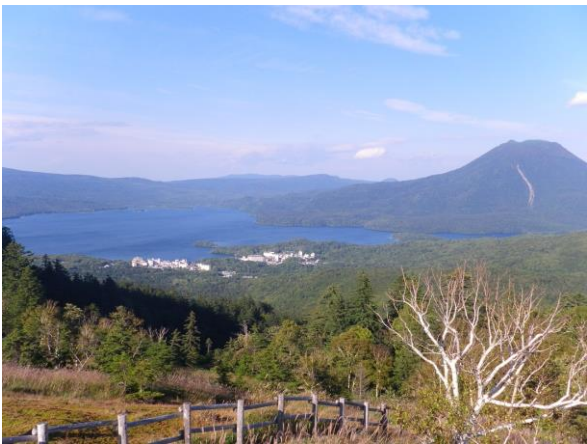
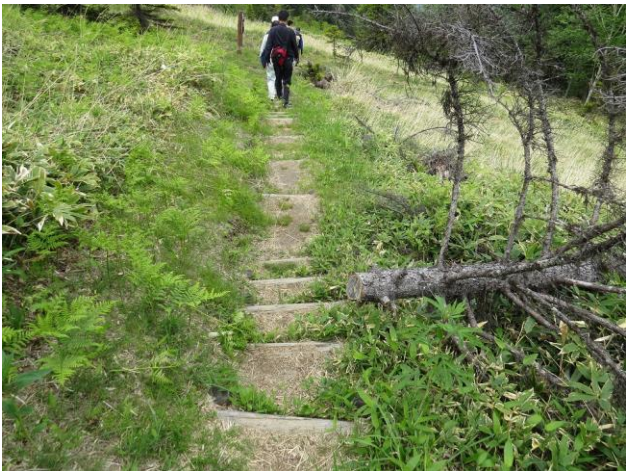
2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- ・ 親水護岸並びに遊歩道、駐車場等の整備の実施
- ・ 阿寒国立公園エリア全般にわたるサイン表示の統一化、ユニバーサルデザイン化
- ・ 利用者の安全性を確保するための管理体制の構築、利用規制等の検討

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	白湯山自然探勝路	ビュー ポイントNo	6
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
○当該ビューポイントの景観等   白湯山頂上付近からの眺望 白湯山展望台付近からの眺望   白湯山展望台 白湯山探勝路 ○当該ビューポイントの利用形態 登山、自然散策等、スノーシュー、スキー（スキー場）			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○当該ビューポイントまでの主要利用拠点からの公共交通機関での所要時間、経路

阿寒湖畔エコミュージアムセンターからスキー場まで車で5分、展望台まで徒歩 90 分

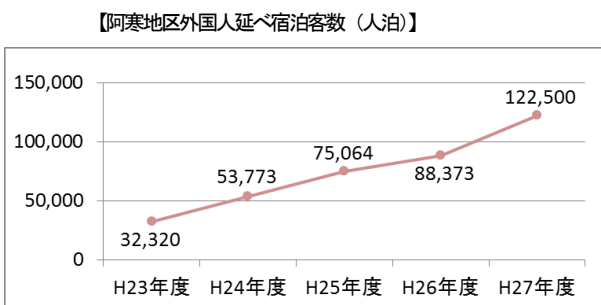
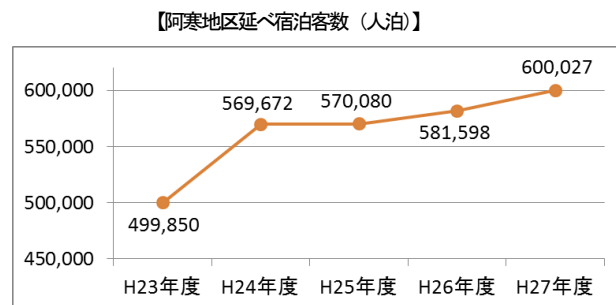


○交通アクセス

- ・ 釧路空港→阿寒湖温泉（路線バス：約 60 分）
- ・ JR 釧路駅→阿寒湖温泉（路線バス：約 110 分）

○当該ビューポイントを訪れる外国人旅行者の数、国籍、意識調査等の結果

■ 阿寒地区の延べ宿泊客数の推移



※ビューポイント 1 か所ごとに No をつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが 5 か所ある場合は、別紙を 5 部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

1-2. キャパシティ ・近年、観光客等への認知度も向上し、利用者も増加傾向にあるものの、現状、過度の利用は見られない。ただし、踏圧による登山道の土壌浸食や、柵や木道の老朽化が散見され、今後利用者が増加した際の探勝路の管理、破損状況への対処に課題を残す。 ・宿泊地（阿寒湖温泉）の稼働状況は、8月（盆休み期間等）、10月（紅葉時期）、2月（春節期間）の一部時期においてピークを迎えるものの、それ以外の時期においては宿泊キャパシティに問題はない。
1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント 【アドバンテージ】 ・白湯山自然探勝路は阿寒国立公園を代表する雌阿寒岳、雄阿寒岳、まりもの阿寒湖と阿寒湖温泉市街を一望できる景勝地となっており、当該ビューポイント一体にはボッケ（泥火山）や噴気高原が点在し、火山性の特異的な地形を観察することができる。 ・夏季は登山や自然探勝、冬季はスノーシュー（探勝路入口まではスキー場ゲレンデのためスキーも可能）を楽しむことができ、四季折々のアクティビティの魅力が発揮されている。 【克服すべきポイント】 ・探勝路（柵、木道、土壌侵食等）及び案内看板等の老朽化 ・外国人旅行者の受入を見据えた国際化対応含むユニバーサルデザイン化 ・ヒグマ等野生動物発生における利用者の安全確保
2. 対策
2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策 ・「自然」「文化」を活かしたエコツアー等の滞在プログラムの企画開発と磨き上げ ・海外への効果的なプロモーション等の実施 ・隣接するスキー場敷地との一体的整備や情報発信
2-2. 克服すべきポイントに対する対策 ・自然探勝路及び案内看板等の整備の実施 ・阿寒国立公園エリアでの統一感を持った、サイン表示の検討、ユニバーサルデザイン化 ・利用者の安全性を確保するための管理体制の構築、利用規制等の検討

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）
 ※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	オンネトー園地	ビュー ポイントNo	7
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
○当該ビューポイントの景観等（四季折々のオンネトーと背後にそびえる雌阿寒岳）   			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

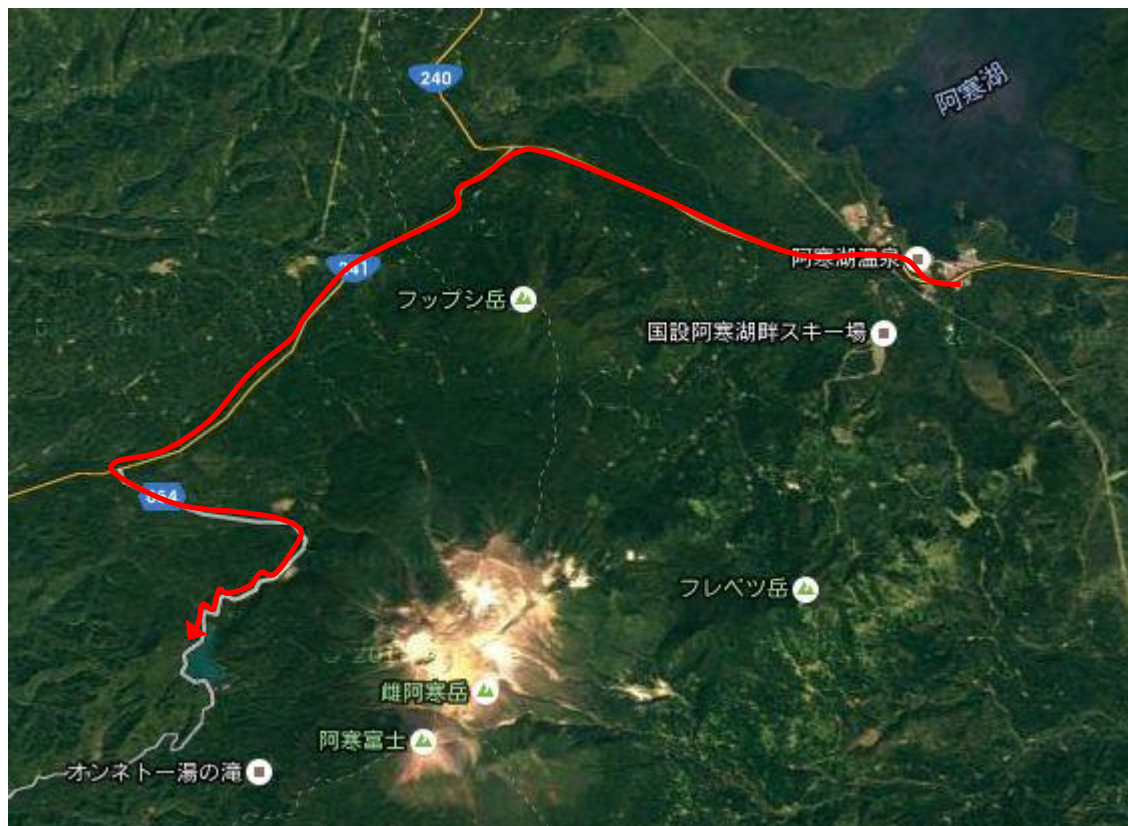
※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○当該ビューポイントの利用形態

湖岸散策、トレッキング、キャンプ等

○当該ビューポイントまでの主要利用拠点からの公共交通機関での所要時間、経路

阿寒湖畔エコミュージアムセンターから車で約 20 分



○交通アクセス

- ・ 釧路空港→阿寒湖温泉（路線バス：約60分）
- ・ JR 釧路駅→阿寒湖温泉（路線バス：約110分）

○当該ビューポイントを訪れる外国人旅行者の数、国籍、意識調査等の結果

- ・外国人旅行者数：不明
- ・オンネト一地区入込数：320,074 人（H27 年度）

1-2. キャパシティ

- ・別名「五色沼」と呼ばれるほど季節や天候によって色鮮やかな景観を見せるオンネトーは、観光客の知名度も非常に高く、観光のピーク時（夏～秋）には、大型観光バスの多数立ち入りによりすれ違いが困難な状況が散見される。そのため、ピーク時には既存の主な利用形態（観光バスによる乗り入れ等）による利用増は避けるべきである。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

- ・最寄の宿泊地である阿寒湖温泉の稼働状況は、8月（盆休み期間等）、10月（紅葉時期）、2月（春節期間）の一部時期においてピークを迎えるものの、それ以外の時期においては宿泊キャパシティに問題はない。

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント

【アドバンテージ】

- ・オンネトーは湖岸を森林で囲まれており、季節や天候、見る角度によって、澄んだ青、エメラルドグリーン、ダークブルーに色が変わって見えるだけでなく、雌阿寒岳・阿寒富士をバックにオンネトーを望むことができる良好な写真撮影ポイントでもあり、多くの利用者に親しまれている。
- ・オンネトーより3kmほどに位置する「湯の滝」は、マンガン酸化物生成現象が地上で見られる世界でただ一箇所の貴重な場所であり、国の天然記念物に指定されている。
- ・オンネトー周辺には、アカエゾマツ原生林、雌阿寒岳（固有の高山植物、活火山）、湯の滝などここでしか見ることのできない秀逸な自然が多い。

【克服すべきポイント】

- ・湖岸テラス及び案内看板等の老朽化
- ・外国人旅行者の受入を見据えた国際化対応含むユニバーサルデザイン化
- ・観光ピーク時の駐車帯スペースのオーバーユース
- ・雌阿寒、オンネトー地域の自然保護活動、エコツアーの拠点が無い

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- ・「自然」「文化」を活かしたエコツアー等の滞在プログラムの企画開発と磨き上げ
- ・海外への効果的なプロモーション等の実施、情報発信力の強化

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- ・湖岸テラス及び案内看板等の整備の実施
- ・阿寒国立公園エリアでの統一感を持った、サイン表示の検討、ユニバーサルデザイン化
- ・車両乗入数の均一化を図るための取組みの検討（乗合タクシーや、サイクリストが利用する乗入施設の新設等）
- ・自然保護活動やエコツアーなどの拠点としての博物展示施設（ミニビジターセンター）の整備

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	つつじヶ原自然探勝路	ビュー ポイントNo	8
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
○利用形態 川湯エコミュージアムセンターからつつじヶ原を経て硫黄山までの自然探勝路であり、道は起伏も少なく、誰でも歩くことができる センターからアカエゾマツ、エゾマツの針葉樹とミズナラ、シラカンバの広葉樹が調和した天然林が広がり、見事なアカエゾマツの純林に沿って進めむと日本一のイソツツジの大群落で、6月には一面、白い花が咲き誇り見事な眺めとなる。 イソツツジの大群落を過ぎると高山帯に生息するハイマツが低地に群落をつくっており、ほかでは見られない光景が広がり、今でも噴煙を出し続けている硫黄山に至る片道2.7km、60分で散策することができるコースである。 ○外国人旅行者の実態 JR川湯温泉駅から道道で硫黄山を経由、または青葉トンネル散策路とつつじヶ原散策路を経由して温泉街へ徒歩で移動している。 ○アクセス JR川湯温泉駅から路線バスで10分または徒歩30分。			
 			
1-2. キャパシティ			
○散策路 利用制限なし。 ○硫黄山駐車場 駐車可能台数 大型バス15台 自家用車154台			
1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント			
○アドバンテージ ●硫黄山から流れる湯の川から採る温泉は、日本でも屈指の酸性度の高い温泉（PH1.8）であり、温泉街の宿泊所はいずれも源泉かけ流しである。			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

- 硫黄山の硫黄採掘の時代からの長い開拓の歴史がある。
- 周囲は硫黄山、つつじが原、アカエゾマツの森等の原始から変わらない森林に囲まれており、国立公園らしい環境に立地する。
- 英語対応可能な地元の旅行会社があり、現地ツアーへの参加申し込みも容易である。

○克服すべきポイント

- 硫黄山などでの多言語案内標記及び安全対策。
- 防護柵等の施設の老朽化

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- 硫黄山の硫黄採掘のための鉱山鉄道や温泉街の歴史などを学習できる資料館を作る（現在観光案内所が入る公共の施設または硫黄山レストハウス内に設置可能）

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- 案内表示などの多言語化
- 老朽化した防護柵などの再整備

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

阿寒国立公園満喫プロジェクト地域協議会 構成案

地域協議会

<国の機関>

- 環境省(事務局): 釧路自然環境事務所
- 国土交通省: 北海道開発局
- 観光庁: 北海道運輸局
- 林野庁: 北海道森林管理局
- 経済産業省: 北海道経済産業局

<地方公共団体>

- 北海道(事務局): 環境生活部環境局、経済部観光局、釧路総合振興局
- 釧路市、美幌町、津別町、清里町、小清水町、大空町、足寄町、標茶町、弟子屈町、白糠町、中標津町

<観光関係団体>

- (公社)北海道観光振興機構(広域連携DMO)
- 阿寒国立公園広域観光協議会
- (特非)阿寒観光協会まちづくり推進機構(地域DMO)
- (一社)摩周湖観光協会(地域DMO申請中)

<関係団体>

- (一財)前田一步園財団
- (一財)自然公園財団(阿寒湖支部、川湯支部)

阿寒地域部会

<国の機関>

- ・釧路自然環境事務所(事務局)
- ・北海道開発局: 釧路開発建設部
- ・北海道運輸局: 釧路運輸支局
- ・北海道森林管理局: 根釧西部森林管理署
- ・北海道経済産業局

<地方公共団体>

- ・北海道(事務局): 環境生活部環境局生物多様性保全課、釧路総合振興局、十勝総合振興局、オホーツク総合振興局
- ・関係市町: 釧路市、津別町、足寄町、白糠町

<観光関係団体>

- ・北海道観光振興機構(広域連携DMO)
- ・阿寒観光協会まちづくり推進機構(地域DMO)
- ・津別観光協会、あしよろ観光協会

<関係団体>

- ・前田一步園財団
- ・自然公園財団阿寒湖支部
- ・阿寒温泉地区景観協議会
- ・阿寒アイヌ工芸共同組合

摩周地域部会

<国の機関>

- ・釧路自然環境事務所(事務局)
- ・北海道開発局: 釧路開発建設部
- ・北海道運輸局: 釧路運輸支局
- ・北海道森林管理局: 根釧西部森林管理署
- ・北海道経済産業局

<地方公共団体>

- ・北海道(事務局): 環境生活部環境局生物多様性保全課、釧路総合振興局、オホーツク総合振興局、根室総合振興局
- ・関係市町: 美幌町、清里町、小清水町、大空町、標茶町、弟子屈町、中標津町

<観光関係団体>

- ・北海道観光振興機構(広域連携DMO)
- ・摩周湖観光協会(地域DMO申請中)
- ・美幌観光物産協会、きよさと観光協会、小清水町観光協会、めまんべつ観光協会、東藻琴観光協会、標茶町観光協会、なかしべつ観光協会

<関係団体>

- ・川湯地域運営協会
- ・自然公園財団川湯支部

国内外先進事例

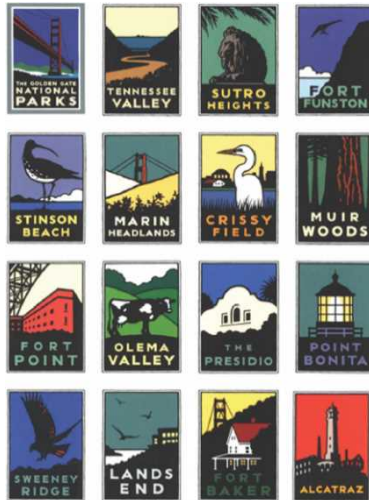
(1) 魅力づくり・ブランディング

(2) 仕組み・受入体制づくり

(3) 情報発信・プロモーション

(1) 魅力づくり・ブランディング（国外事例）

① 国立公園としてのブランドづくり



シンボルロゴ



関連商品

【アメリカ・ゴールデンゲート国立レクリエーション地域】
・シンボルロゴを策定し、広告展開と関連商品開発を進めた結果、公園の認知度向上を実現。収益にも繋がっている。

出典）アメリカ公園管理局、ゴールデンゲート公園財団 各HP



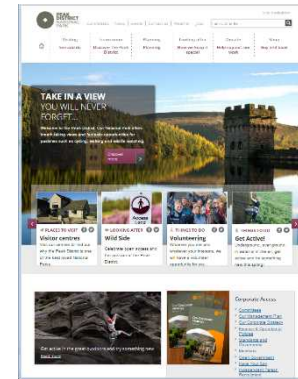
Lake District National Park



PEAK DISTRICT NATIONAL PARK



NORTH YORK MOORS NATIONAL PARK



【イギリス】

・各公園で地域色を出したシンボルマークを設定。ウェブサイトも各公園でデザインしている。

出典）レイクディストリクト国立公園、ピークディストリクト国立公園、北ヨークムーアズ国立公園 各HP

② 園地内のユニバーサルデザイン化



イエローストーン国立公園

TRACK CATEGORY DESCRIPTIONS	
	Easy access short walk – wheelchair accessible
	Short walk – easy walking for up to an hour
	Walking track – gentle walking from a few minutes to a day
	Great Walk/Easy tramping track – well formed track for comfortable overnight tramping/hiking
	Tramping track – backcountry skills and experience required
	Route – navigation and high level backcountry skills and experience required

【アメリカ】

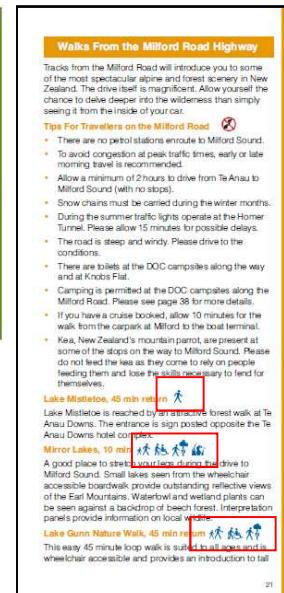
・ユニバーサルデザインのガイドラインに基づき、様々な利用者が円滑に移動できるよう整備されている。

出典）（公財）日本交通公社

【ニュージーランド】

・全公園共通のサインでレベルを伝えることで、身体状況や技術に応じたルートを選択できる。

出典）フィヨルドランド国立公園パンフレット



パンフレットに記載されたサイン



9ヶ国語に対応した案内標識

【スペイン・サンチャゴ巡礼路】

・区間によって、複数の言語に対応した案内標識が設置されている。

出典）（公財）日本交通公社

(1) 魅力づくり・ブランディング（国内事例）

① 新たな地域資源を活かした魅力づくり



ラフティング



キャニオニング

【群馬県みなかみ町】

- ・目を向けられていなかった利根川の急流に注目した外国人移住者がアウトドア会社を設立したことをきっかけに、ラフティングやキャニオングを好む外国人客が増加した。

出典）インバウンド推進のツボ（（公財）日本交通公社）

② 訴求力のある資源を核としたブランディング



自転車の置ける宿泊施設

国際大会の様子



【広島県尾道市・愛媛県今治市・しまなみ海道】

- ・サイクリストの宿泊施設の整備が進むとともに、道の駅などにあるレンタサイクルターミナルでのレンタサイクル利用が増加。米CNNの世界7大サイクリングロードに選定。

出典）インバウンド推進のツボ2（（公財）日本交通公社）/朝日新聞

③ 日本の文化体験プログラムによる魅力づくり



CULTURE WALKの様子



TOWN WALKの様子

【岐阜県飛騨市】

- ・酒文化講座、里山サイクリング、街並みウォーキング等飛騨に受け継がれてきた「暮らし」を体験できるプログラムを提供。2013年には外国人参加者数が日本人数を上回った。

出典）SATOYAMA EXPERIENCE HP

④ 郷土料理を活かしたプログラムによる魅力づくり



夕食中の受け入れ民家と修学旅行生



みかん収穫の様子

【和歌山県田辺市・株式会社秋津野】

- ・農家と協力して外国人修学旅行生や個人客を農家民泊で受け入れ、農産物の収穫体験や地元野菜の料理体験を提供。ヨーロッパからの個人客が増加している。

出典）紀伊民報/近畿農政局HP

(2) 仕組み・受入体制づくり（国外事例）

① 国立公園に関する情報サイトの多言語化



韓国（日本語の画面）

台湾（日本語の画面）

【韓国、台湾】

- ・韓国：公園紹介サイトが4言語（英中（繁・簡）日）に対応。
- ・台湾：入園申請サイトが2言語（英日）に対応。

出典）韓国国立公園管理公団、台湾内務省建設計画局各HP

② 公園の利用を促す都市発着ツアーの催行



都市発着ツアーの様子

【オーストラリア・ビバルマントラック】

- ・トレイル上の主要な都市と都市の間を区間ごとに踏破するガイドツアーを定期的に催行。全てのツアーに参加することで無理なく全線踏破できるため、再訪意向の醸成に繋がっている。

出典）ビバルマントラック財団HP

③ 主な鑑賞地点へのベンチ等の設置



イエローストーン国立公園

【アメリカ】

- ・主要な鑑賞地点では、ベンチや観察用のデッキが設置され、景観を楽しむことができる。

出典）（公財）日本交通公社

④ 地域の企業や住民との協働による施設の維持管理



ボランティアの活動の様子

【オーストラリア・ビバルマントラック】

- ・147区間それぞれに担当ボランティアがあり、地元企業の協賛を受けたプログラムに基づき、日常的に維持管理を行っている。

出典）ビバルマントラック財団HP

⑤ 観光案内所（ビジターセンター）のワンストップ窓口化



【ニュージーランド】

- ・全国の観光案内所（i-SITE）で、宿泊、交通、アトラクション、現地アクティビティなどの情報収集と予約が可能。

出典）ニュージーランド政府観光局HP

⑥ ピクトグラムの活用



アメリカ国立公園の標識

スイスの標識

【アメリカ、スイス】

- ・ピクトグラムの活用により、様々な国の方にも伝わるような直観的に分かり易いサイン表記をしている。

出典）アメリカ国立公園管理局HP
Schweizer Norm 640 829a

(2) 仕組み・受入体制づくり（国内事例①）

① サインの統一による交通アクセスの改善



マニュアル作成・案内表示統一前



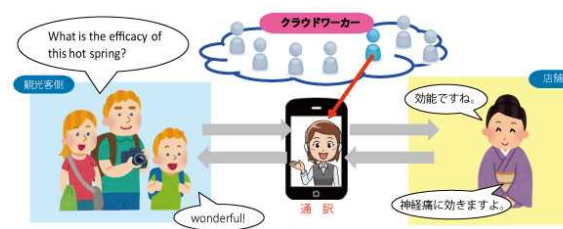
マニュアル作成・案内表示統一後

【小田急箱根グループ】

- 案内表示に使用する色、書体、外国語表記方法等のサインマニュアルを作成、小田急グループ交通機関全てにおいて共通化した。結果、乗り継ぎに関する問い合わせや迷う人が減少。

出典）北海道の観光産業のグローバル化促進調査事業報告書（経済産業省北海道経済産業局）

② IT活用による店舗・施設における多言語対応



クラウドソーシングを用いた通訳の流れ



使用風景

【豊岡市城崎町・城崎温泉】

- 通訳アプリを試験的に導入。動画チャットを通じてその場で通訳を介して問い合わせに対応する。

出典）cnet.Japan／株式会社ケイ・オブティコムプレスリリース

③ ワンストップ対応による観光客の手間の削減



豊富な情報量

【長野県飯山市・飯山駅観光案内所】

- 観光情報提供、宿泊予約、ガイドツアー手配、交通案内、宅配、手荷物預かりなど観光客の多様な要望に応じられるようになっている。

出典）飯山駅観光案内所HP

④ 官民連携による経済効果の最大化



クルーズ船が寄港したときの様子



クルーズ船寄港時のみオープンする中国人専用コーナー

【福岡県福岡市】

- 行政が民間事業者と連携し、市街地までのシャトルバス運行や出入国手続きの迅速化に取り組むことで、クルーズ船で来訪する外国人観光客による経済効果を最大化。

出典）インバウンド推進のツボ（（公財）日本交通公社）

(2) 仕組み・受入体制づくり（国内事例②）

⑤ 宿泊施設との連携によるツアー参加の促進



京都嵯峨野散歩



一番深い京都（The Deepest Kyoto）ツアー

【京都市・宇多野ユースホステル】

- ・外国人の宿泊が多く、各種ウォーキングツアーや、戦国武将扮装、京舞妓扮装といった各種文化体験の申込みを受け付けている。

出典）宇多野ユースホステルHP

⑥ 多言語対応による交通アクセスの改善



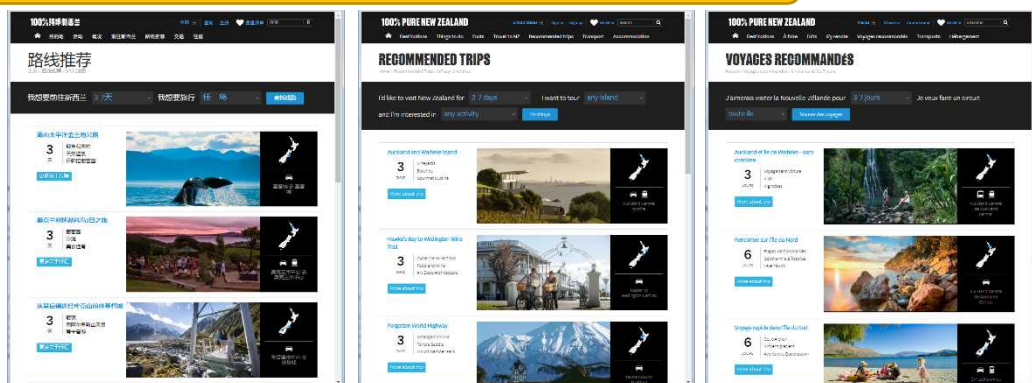
【長崎市】

- ・外国人旅行者が安心して長崎市内の公共交通を利用できるように、留学生各3名の協力を得て、検討・制作・モニター調査を行い『公共交通ガイドブック』を発行した。

出典）ながさき旅ネットHP

(3) 情報発信・プロモーション（国外事例）

①対象国の志向に合わせたウェブ情報の提供



「期間3-7日、目的地指定なし」という条件で検索した結果画面。中国（左）はアクティビティ系中心なのに対し、アメリカ（中）やフランス（右）はゆったり楽しむ内容のものが中心となっている。

【ニュージーランド政府観光局】

- ・公式ウェブサイトで紹介される「おすすめモデルコース」は、国（言語）によって内容が異なり、対象国の旅行の志向に合わせた情報が提供されるようになっている。

出典）ニュージーランド政府観光局HP

③SNSの活用による公園の日々の姿の情報発信

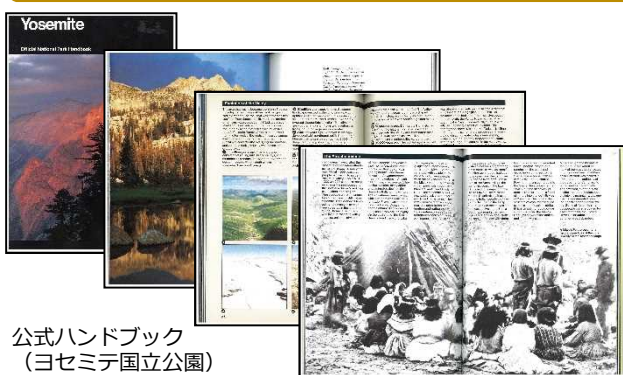


【アメリカ、イギリス、オーストラリア】

- ・当局や外郭団体がSNSに自らアカウントを持ち、ガイドブックや情報紙で伝えきれない情報をこまめに伝えている。

出典）イエローストーン国立公園のFacebook、Twitter、Instagramの各画面

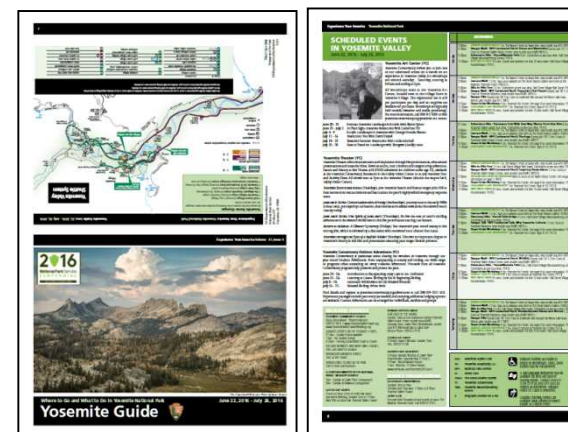
②様々な紙媒体の使い分け



公式ハンドブック
（ヨセミテ国立公園）



公園案内マップ（ヨセミテ国立公園）



情報紙（ヨセミテ国立公園）

【アメリカ】

- ・国立公園局が各公園の自然や歴史などの総合的な情報を紹介する公式ハンドブックを発行し有償で販売している。各公園では案内マップの他、日々のイベントや交通などの情報が記載された情報紙が無料配布されている。

出典）ヨセミテ国立公園公式ハンドブック、ヨセミテ国立公園公式公園案内マップ、情報紙ヨセミテガイド

(3) 情報発信・プロモーション（国内事例）

① SNS・インフルエンサーを活用した情報発信



水都大阪をめぐる旅を体験する中国人留学生

【神戸国際大学】

- ・日本で暮らす中国人留学生が、雑誌、動画、SNSを通じて、中国国内のインフルエンサー（情報発信力を持つ人）となる若い世代に対し、日本の姿を深く掘り下げて伝える。

出典）YouTube-遊日通道

② Wi-fi整備促進による口コミ数の増加



多言語対応のステッカー

【山梨県】

- ・県が中心となり、飲食店等が自らwi-fiを整備し、NTT東日本の協力を得て周知を行うなどの官民一体となった取組を実施した結果、口コミを発信する外国人旅行者が増加した。

出典）山梨県HP

③ ビーコンを活用した個人客へのガイド対応



アプリ「Nara Audio Guide」のイメージ

【奈良県春日大社】

- ・アプリをダウンロードしたスマートフォンがビーコンに近づくと、ガイドコンテンツが立ち上がり、巫女による歴史・参拝方法・祭りなどの解説が行われる。

出典）奈良県HP

④ 外国人登用による外国人に響く媒体づくり



日本人が作成した英版パンフレット

登用された外国人が作成した英版パンフレット

【広島県廿日市市】

- ・地元に愛着のある外国人をプロモーション担当として登用し、パンフレットやウェブサイト作成に当たって、外国人の視点を導入。あえて見えない部分を作ること、宮島の売りを目立たせている。

出典）インバウンド推進のツボ（（公財）日本交通公社）